

ビーチバレーボール補足資料

(前述に加え、ビーチバレーボール特有の責務及び判定を付記)

『ラインジャッジの責務』

1. 試合前

(1) 服装

- ① レフェリーウェアもしくは、支給された服装（支給がない場合は、全員が揃う服装が望ましいが、揃わない場合は、同系色の服装でも可能）を着用し、運動靴と靴下を履く。
- ② サンングラスの着用も可能。

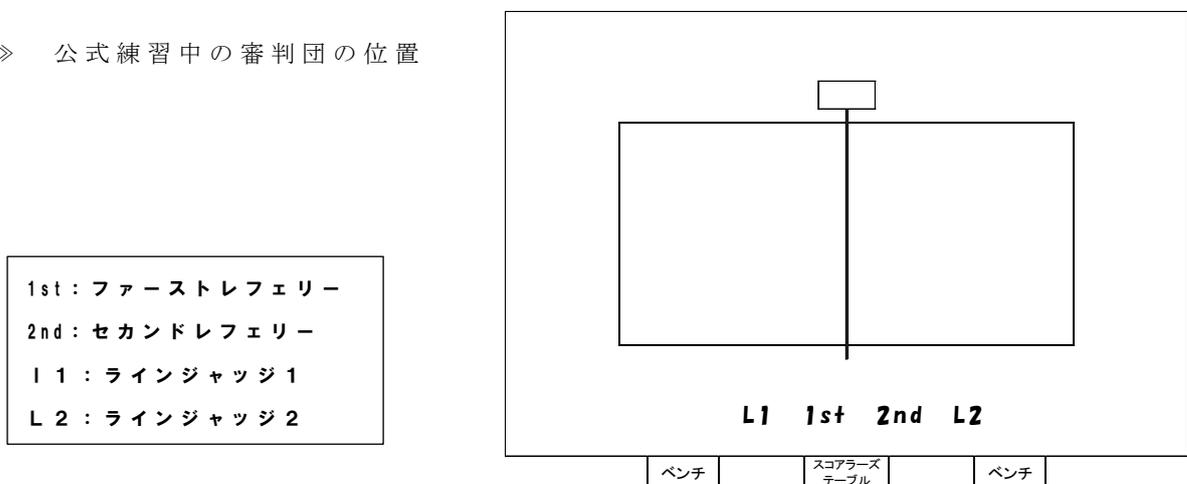
(2) 試合設定時間の20分前までに、また、前の試合が長引いた場合は、前の試合が終了する前に指定の場所に集合する。

(3) マッチプロトコール中は、スコアラーズテーブル前に整列する。《図1参照》
(4人の場合はL1・L2・ファーストレフェリー・セカンドレフェリー・L3・L4という位置で整列する。)

(4) 公式練習終了後、ファーストレフェリーがレフェリースタンドに向かうタイミングで競技エリア内の所定の位置につく。
(4人の場合は、L1・L2とL3・L4が一行に並んで所定の位置に向かう。)

(5) サンドレベラーがレーキをかけた後に、担当ライン上の砂を落とし、ラインの状態、アンテナ、サイドバンドに歪みがないか確認する。

《図1》 公式練習中の審判団の位置



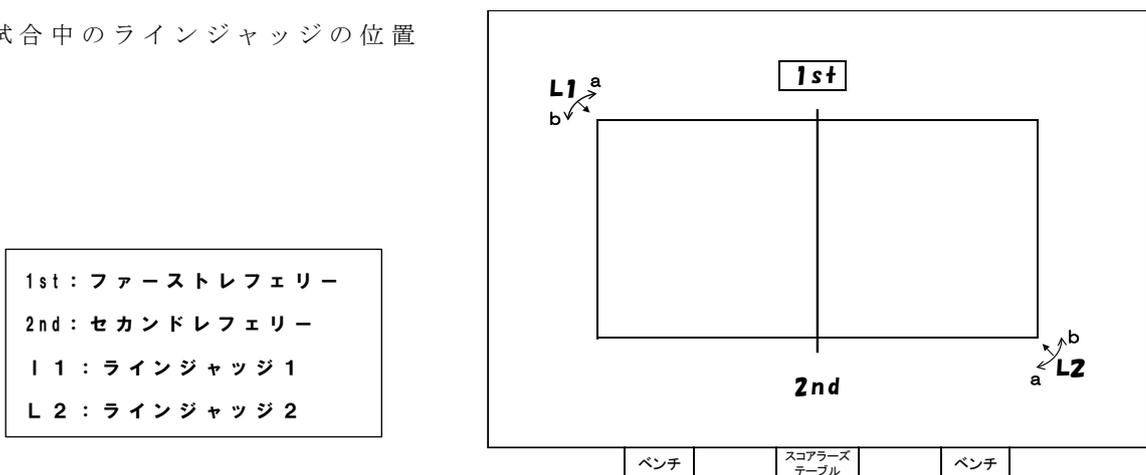
2. 試合中

(1) インプレー中のラインジャッジの位置

① ラインジャッジが2人の場合《図2参照》

- ・ファーストレフェリーとセカンドレフェリーの右側コーナーから、1 m離れた対角線の位置に立つ。
- ・それぞれ自身側のエンドラインとサイドラインの両方を判定・管理する。
- ・ボールが向かってくる方向によって、位置を変えて判定する。(左右1歩程度) エンドラインを判定するときはaへ移動し、サイドラインを判定するときはbへ移動する。
- ・自身側からの攻撃の場合には、原則としてbへ移動し、サイドラインの判定を中心に行う。
- ・自身側チームのサービスの際には、aへ移動し、フットフォルトの有無に注意する。

《図2》試合中のラインジャッジの位置



② ラインジャッジが4人の場合（6人制・9人制と同じ）

- ・自分の担当するラインの想像延長線上でコート各コーナーから2 m離れ、ラインを身体を中心に置き、視線はライン上に置くようにしてフリーゾーン内に立つ。
- ・エンドラインはライトサイドのコーナーから「L2」・「L4」が、サイドラインはレフトサイドのコーナーから「L1」・「L3」が判定・管理する。

(2) アウトオブプレー中や試合中断中の位置や動き

- ・ラリー終了時には、担当ラインの歪みやラインにかかる砂の凸凹を確認し、必要に応じて素早くライン及び砂の状態を修正する。
- ・風でラインが揺れる場合、ラリー終了時に、まずライン上から（状況に応じてライン下を）足で左右にスライドして、ラインと砂（地面）との凸凹を少なくする。それでも揺れが収まらない場合には、ライン上に拳大の砂山を作りラインの揺れを止める。
- ・タイムアウトやTTO、セット間は、サイドライン後方のフリーゾーン際まで（ラインの歪み等を確認しながら）コート側を向いた状態で下がり、自然体でリラックスした姿勢で待つ。（広告バナーがある場合には、文字等を隠さないようバナー間に立つ）その際、フリーゾーンコーナー外側に置いてあ

る各自の飲料にて速やかに水分補給を行って良い。

- ・ サンドレベラーがライン上にレーキをかけた後は、各コーナーに移動し、2人のラインジャッジでサイドライン上、その後にそれぞれがエンドライン上の砂を落とし、ラインを真っすぐにする。4人の場合には、「L1」と「L4」、「L2」と「L3」でサイドライン上を、次いで「L1」と「L2」、「L3」と「L4」でエンドライン上の砂をそれぞれ同時に落とし、ラインを真っすぐにする。

3. 試合後

- (1) レフェリースタンドの左右（ファーストレフェリー・セカンドレフェリーの外側）に整列する。
- (2) ファーストレフェリー・セカンドレフェリーの後についてスコアラズテーブル側に戻り、フラッグをスコアラズテーブルに置く。

『ラインジャッジの判定の仕方』

1. ラインに関する判定（ボールイン・ボールアウト）

- (1) 2人の場合、イン、アウトの判定はライン正面に移動して行うことが望ましい。ボールの速度が速く、ライン付近に落下する前に正面に移動できない場合には、移動することよりも静止して判定することを優先し、イン・アウトの確認を行ってから、フラッグシグナルを行う際に、ライン正面に移動する。
- (2) ラインにボールが接触すれば、ボールインの判定をする。
- (3) ラリー中、風や選手のプレー中の動きによって正常ではない位置にラインが動いた場合、たとえ大きく曲がっていても、ラインを基準にボールイン・アウトを判定する。また、ファーストレフェリーの最終判定が終わり、選手からのボールマークプロトコルの要求が無いことを確認するまでラインの修正は行わない。
- (4) ボールマークプロトコル時は、ファーストレフェリーにラインにボールが接触したか、接触しなかったかを明確に口頭で伝え、ファーストレフェリーに確認されたらボールが落ちた位置を手の平で示す。（フラッグや人差し指で指さない。）
※ファーストレフェリーが最終判定をしたあと、ファーストレフェリーとアイコンタクトをとりボールマークを消す。

2. ボールコンタクトの判定

自身側チームのブロックにおけるボールコンタクト（自身側コートにボールが入る場合）は、確実に見えた場合に限りラリー中もファーストレフェリーが確認できるように（2秒程度）フラッグシグナルを示す。